

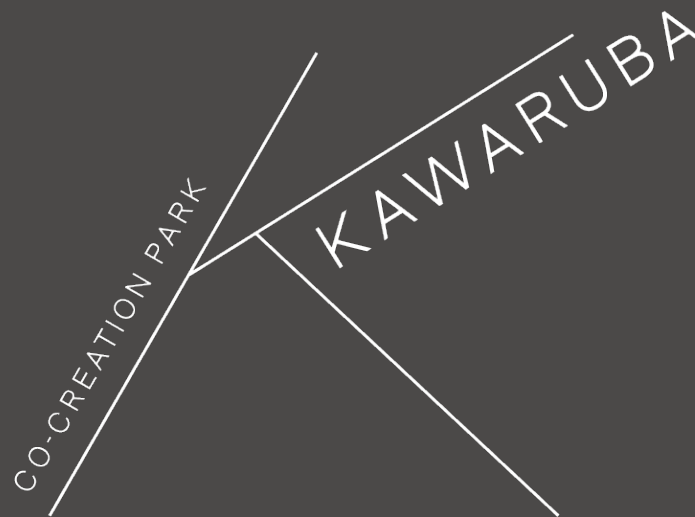
グループビジョン2030進捗報告会

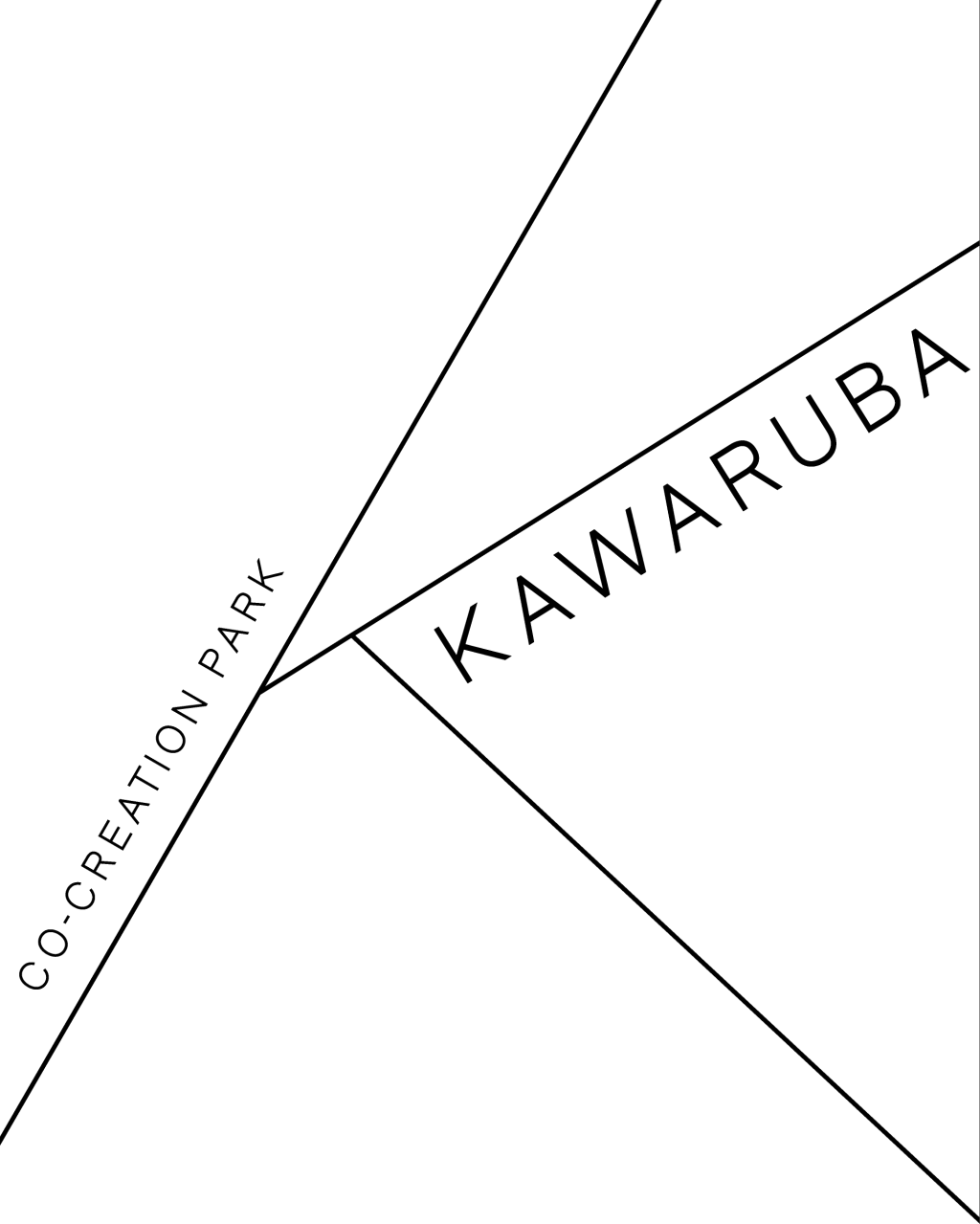
2026年10月6日

川崎重工業株式会社

代表取締役社長執行役員

橋本 康彦





①

全社の重点投資方針

②

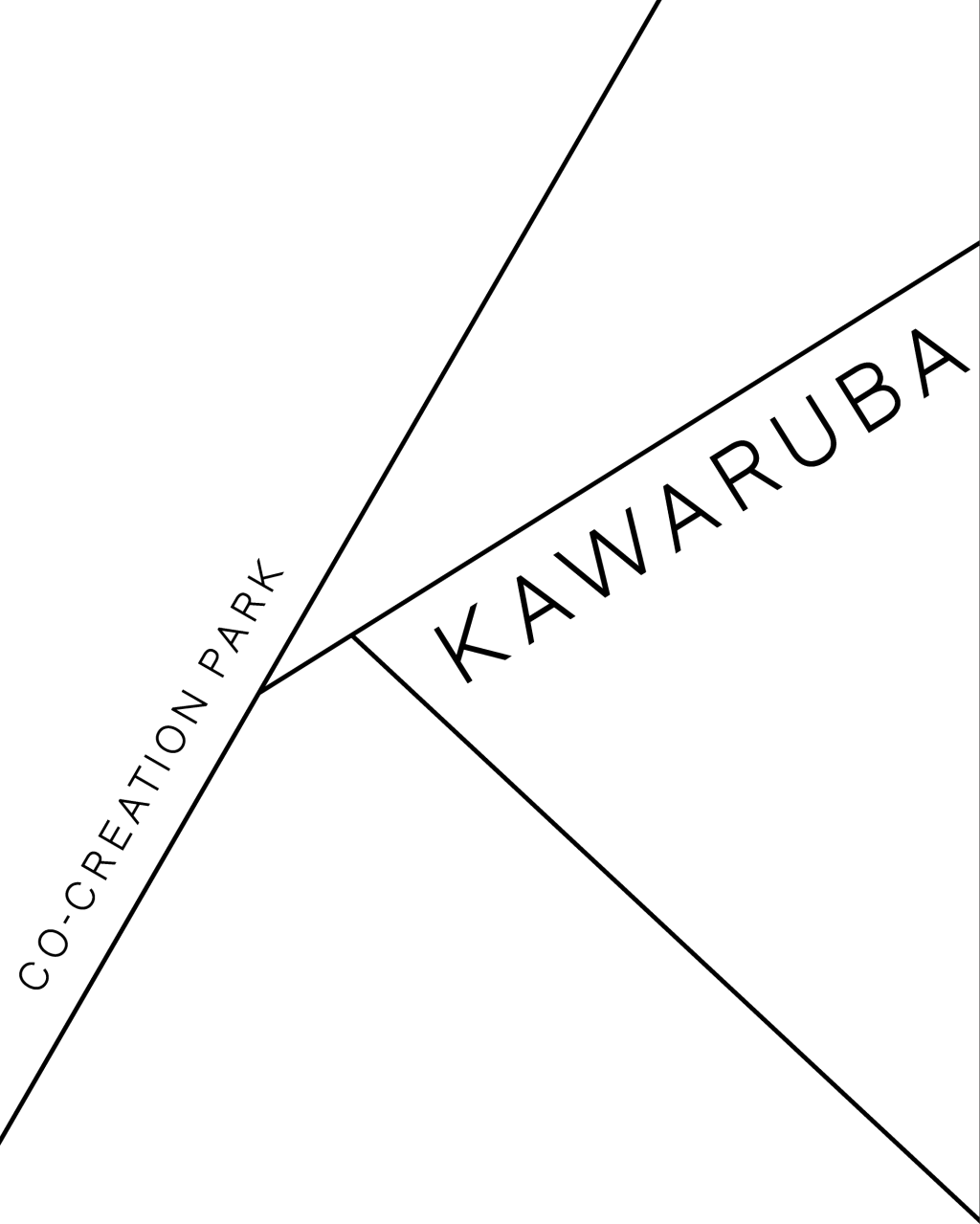
防衛事業

③

エネルギー事業

④

フィジカルAI



安全安心
リモート社会

近未来
モビリティ

エネルギー・環境
ソリューション

①

全社の重点投資方針

②

防衛事業

③

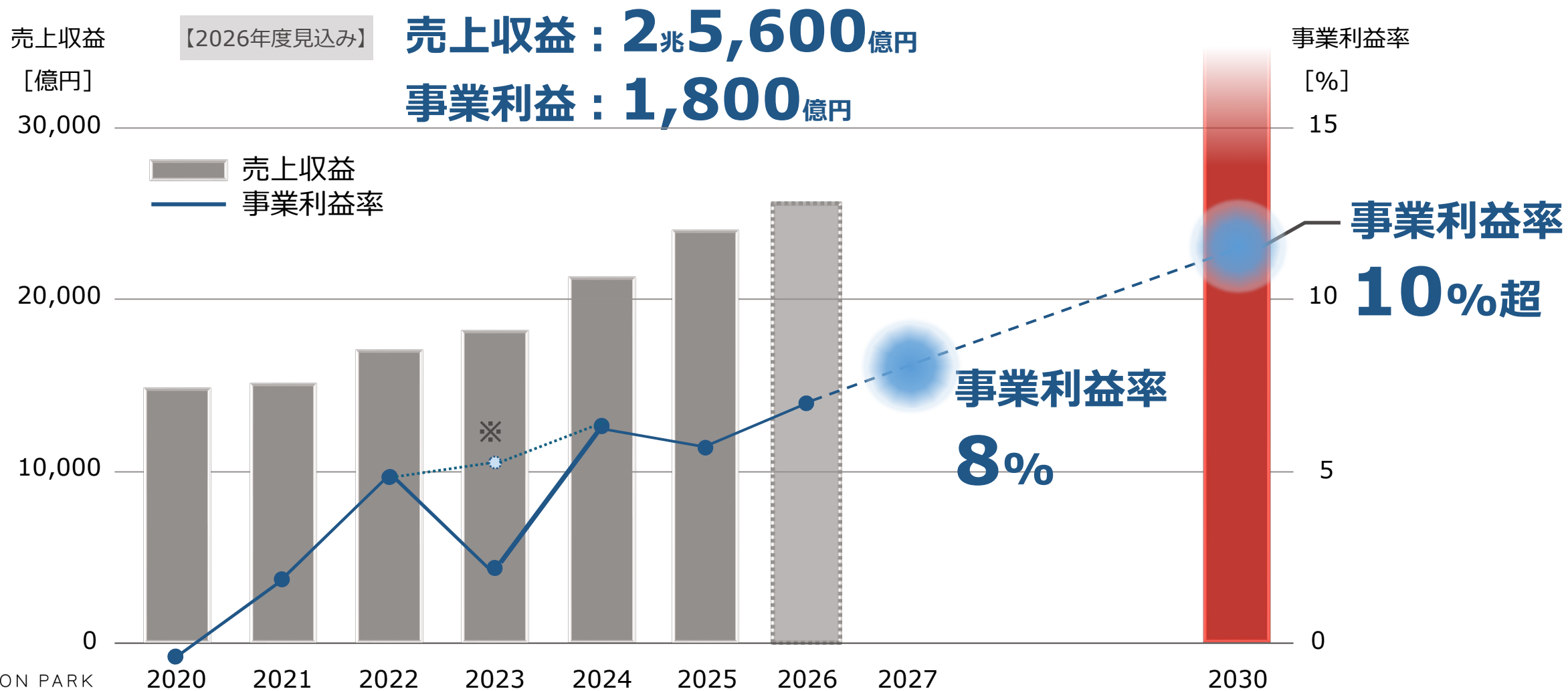
エネルギー事業

④

フィジカルAI

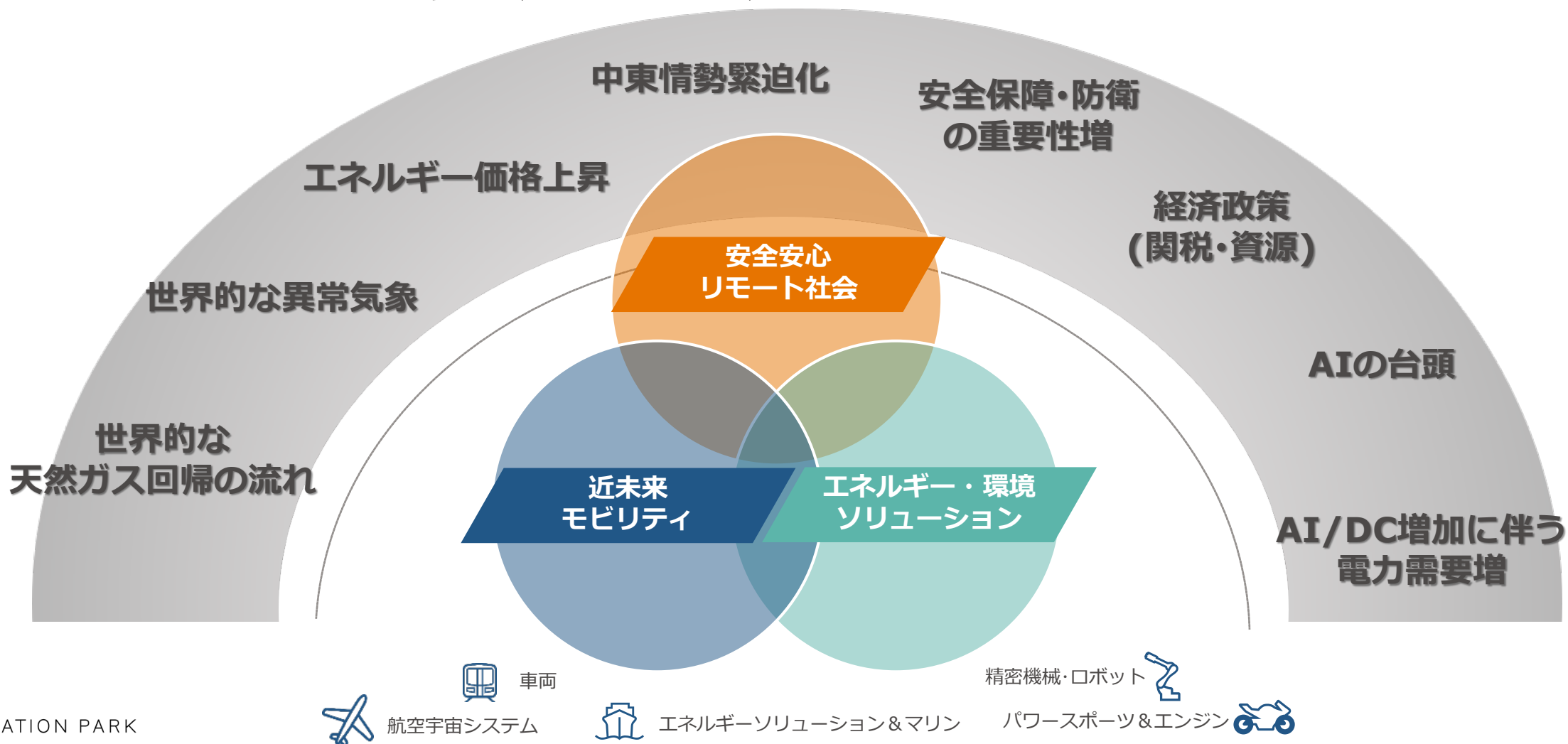
3年間を振り返って

■ 2024・2025年度は、売上収益・事業利益とも過去最高を更新。2026年度も過去最高更新を見込む



事業環境の変化

- 2020年にグループビジョン2030 3つの注力フィールドを策定後、6年間で当社事業を取り巻く環境は大きく変化・ますます複雑に



日本の戦略17分野に当社事業領域は多数該当

- 昨今の社会情勢を踏まえ策定された**日本の戦略17分野に多数該当**
- **国策と連動**し、当社事業も**さらなる飛躍へ**

日本の戦略17分野

AI・半導体	デジタル・サイバー セキュリティ	情報通信
量子	防衛産業	航空・宇宙
海洋	造船	マテリアル
合成生物学・バイオ	創薬・先端医療	資源・エネルギー 安全保障・GX
フュージョンエネルギー	フードテック	防災・国土強靱化
港湾ロジスティクス	コンテンツ	

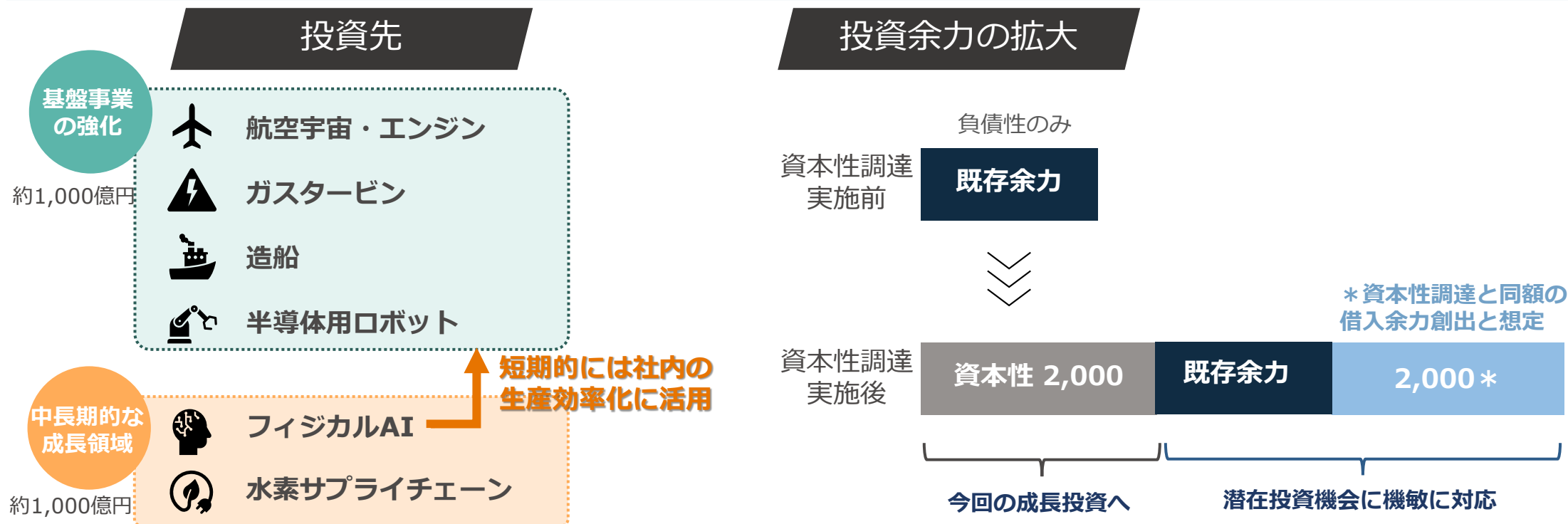
8分野 / 17

資本性調達を実施し成長投資を加速

外部環境の変化を追い風に、当社事業の成長をさらに加速すべく、
約**2,000億円**の**資本性調達**を本年7月に実施（公募増資：約1,000億円、CB※：約1,000億円）

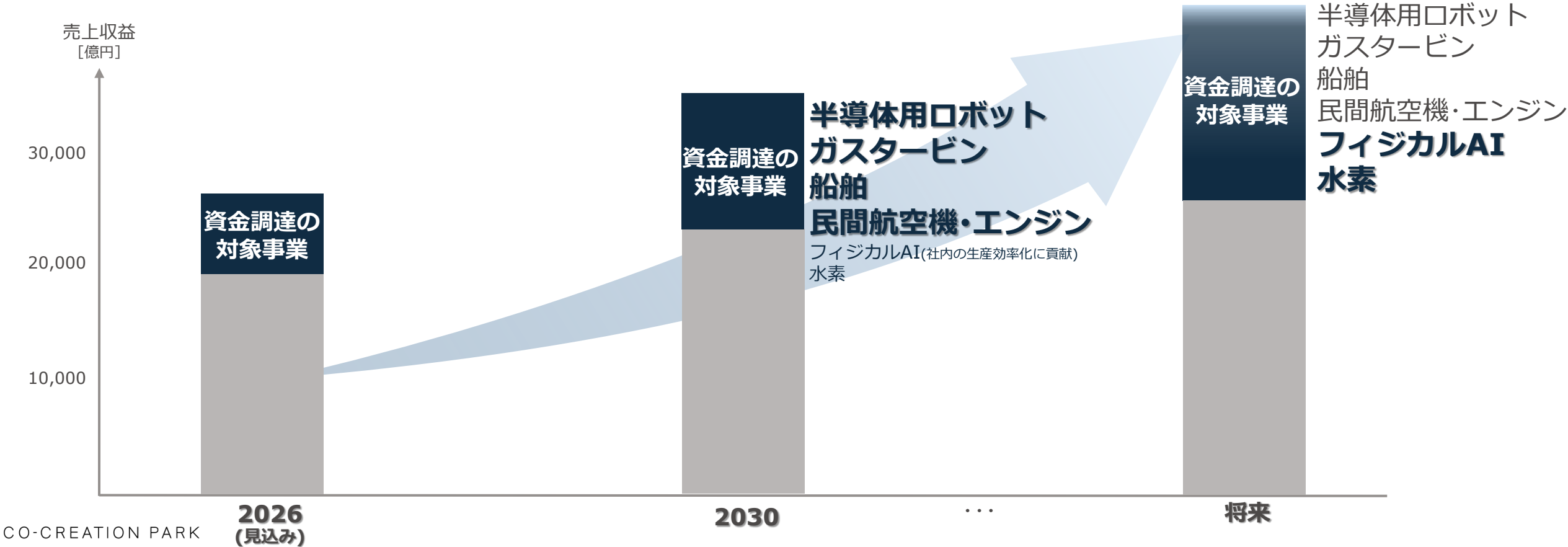
- ✓ **基盤事業の強化**と**中長期的な成長領域への投資**を実行
- ✓ **財務健全性（ネットD/Eレシオ50%程度を目安）と投資余力拡大を両立**

※転換社債型新株予約権付社債



資本性調達対象事業の成長

- 資本性調達による投資効果は2028年頃から顕在化する見込み
- 短期的には**ロボット・ガスタービン等の増産**や**各事業の生産工程でのフィジカルAI活用**による投資効果、
長期的には**水素・フィジカルAI**などでの投資効果が大きくなる見込み

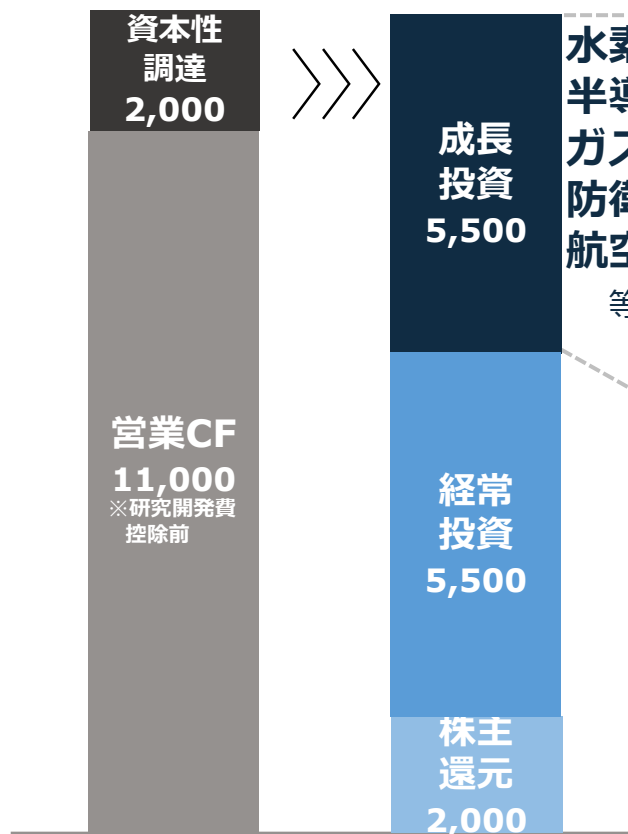


キャッシュアロケーション（2027～2030年度）

- 2027～2030年度の4年間で、現在高収益かつ将来の大幅な成長が見込まれる主力事業と、中長期的に飛躍的な成長が見込まれる新規育成事業を中心に投資
- 資本性調達はそれら事業への投資に充当

約1.3兆円

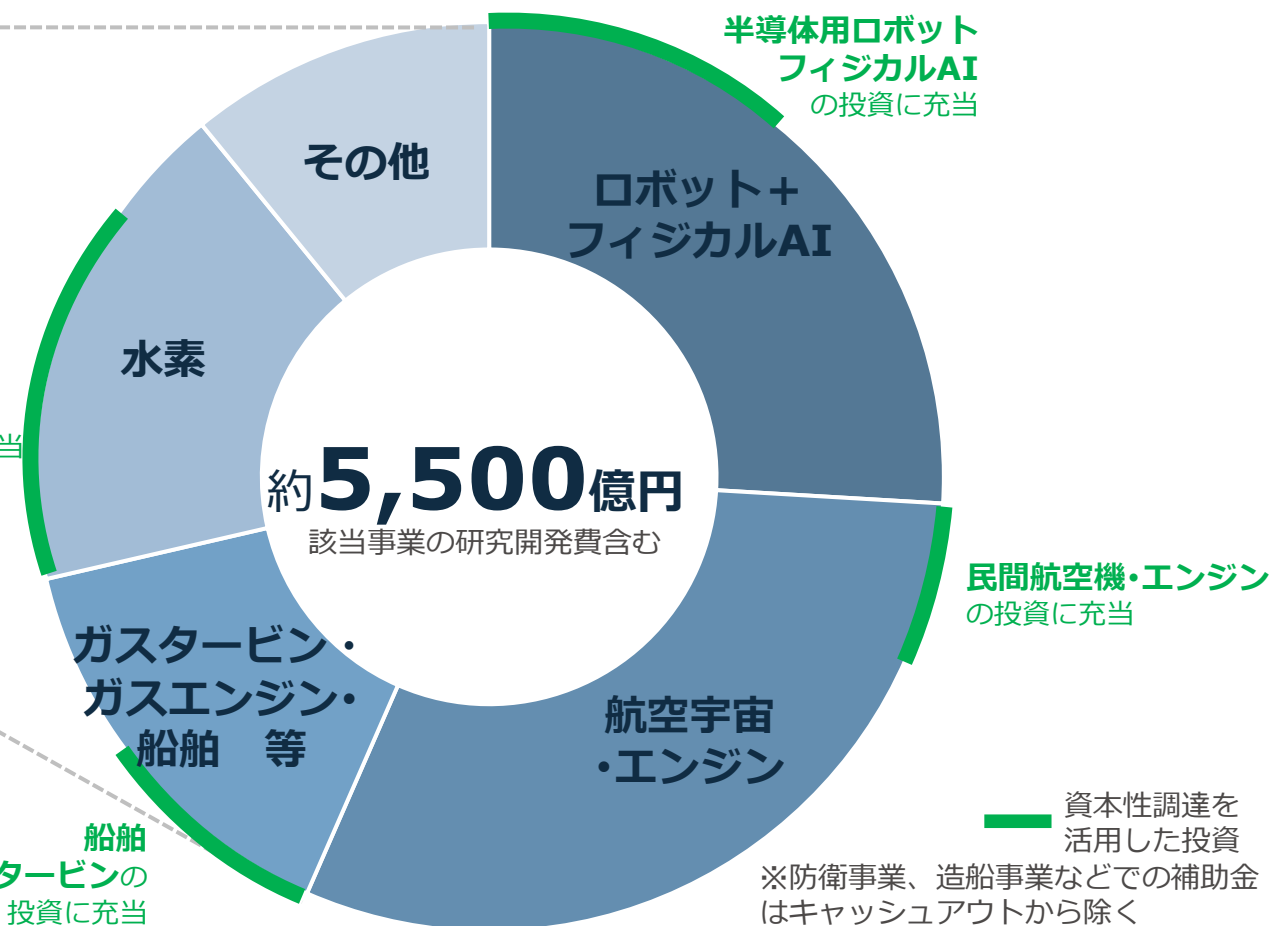
約1.3兆円



キャッシュイン

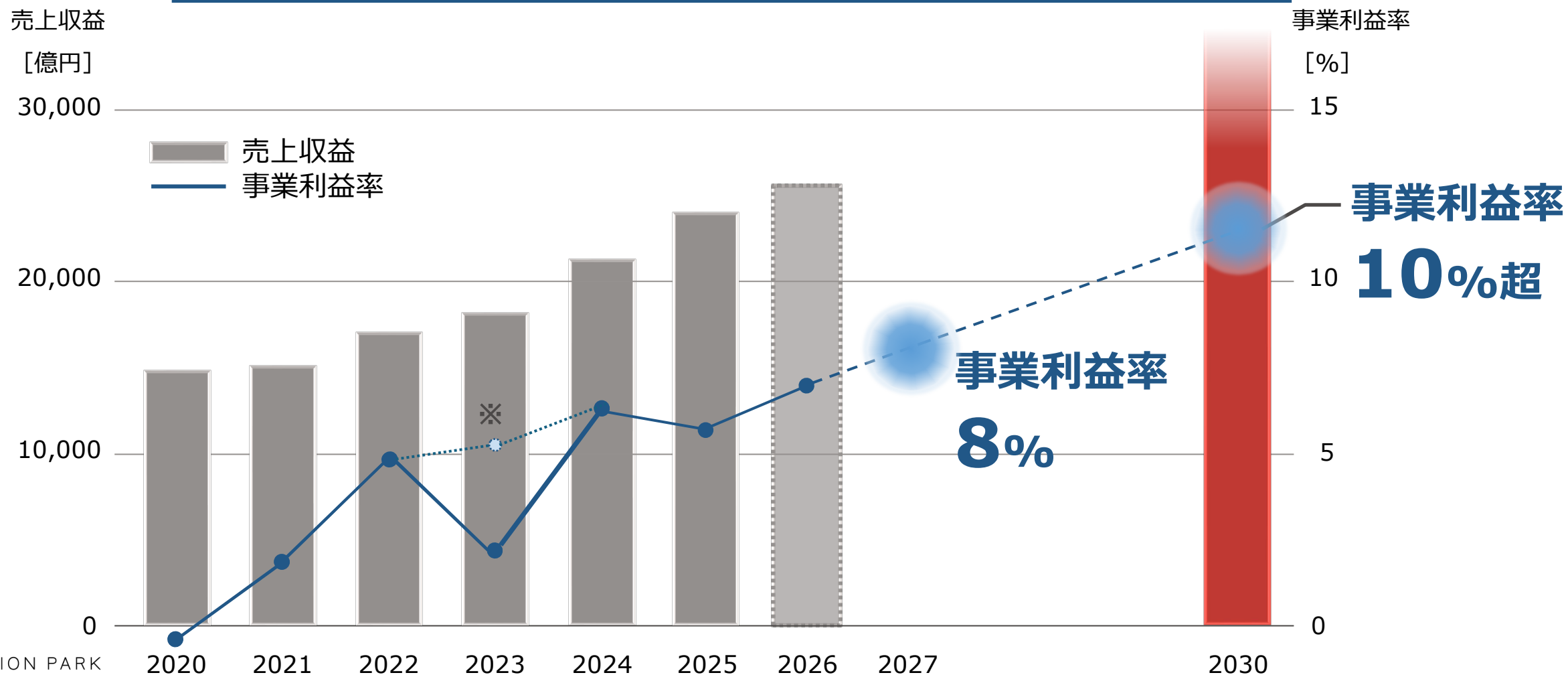
キャッシュアウト

水素
半導体用ロボット・フィジカルAI
ガスタービン、ガスエンジン
防衛
航空機・エンジン
等の事業への成長投資(増産対応等)



2030年に向けた事業計画のアップデート

資本性調達を活用した、他社に先駆けた確実・機動的な投資を実行し、
2030年度に**売上収益3.3兆円超、事業利益3,300億円超(事業利益率10%超)**を実現する



セグメント別売上収益イメージ

2030年にかけて、航空宇宙システム、エネルギーソリューション&マリン、精密機械・ロボットの売上比率が高まる見込み

2026年度売上収益 (見込み)



2030年度売上収益 (イメージ)



社会の変化にあわせて、当社のソリューション提供も加速



航空宇宙システム



車両



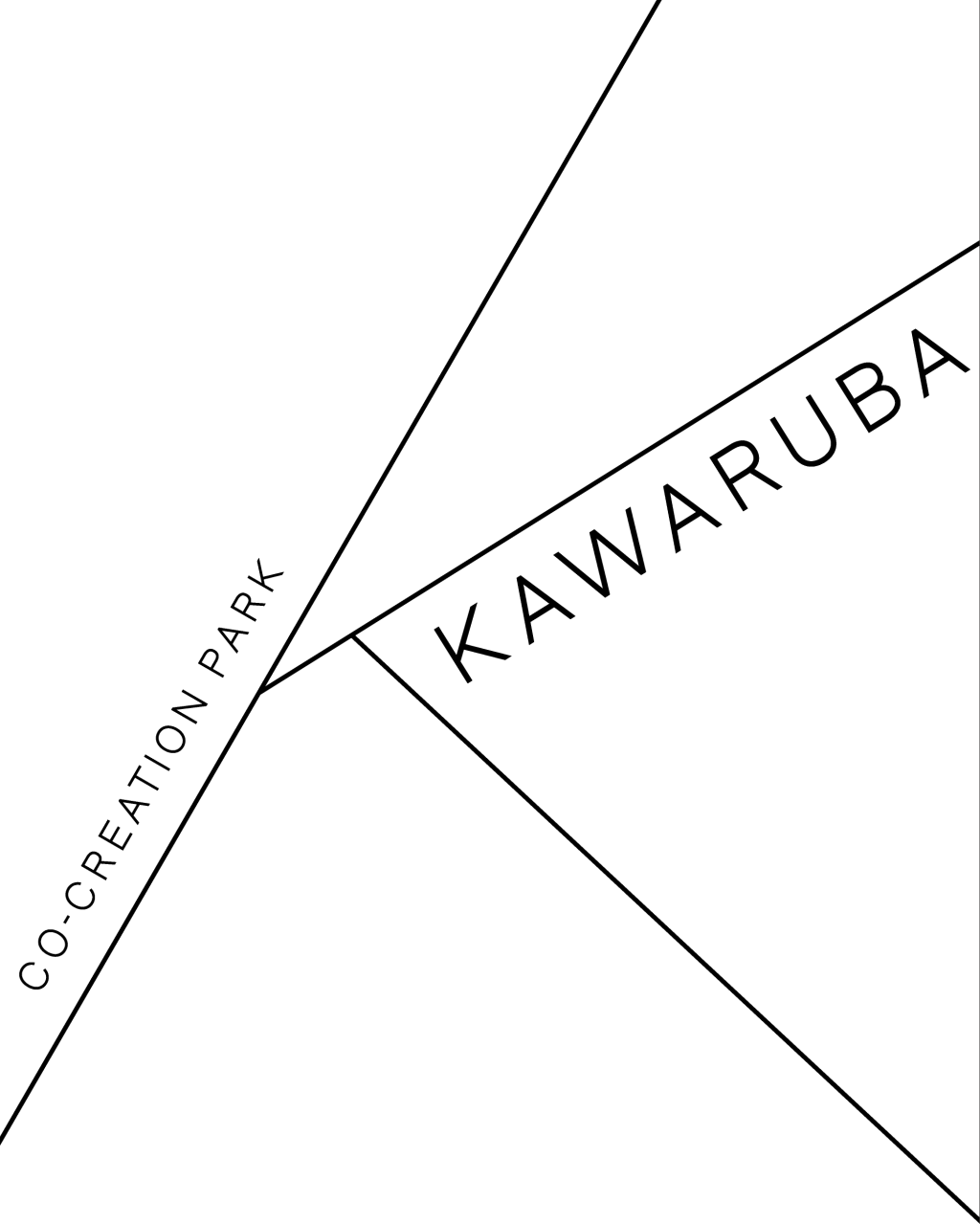
エネルギーソリューション&マリン

精密機械・ロボット



パワースポーツ&エンジン





安全安心
リモート社会

近未来
モビリティ

エネルギー・環境
ソリューション

①

全社の重点投資方針

②

防衛事業

③

エネルギー事業

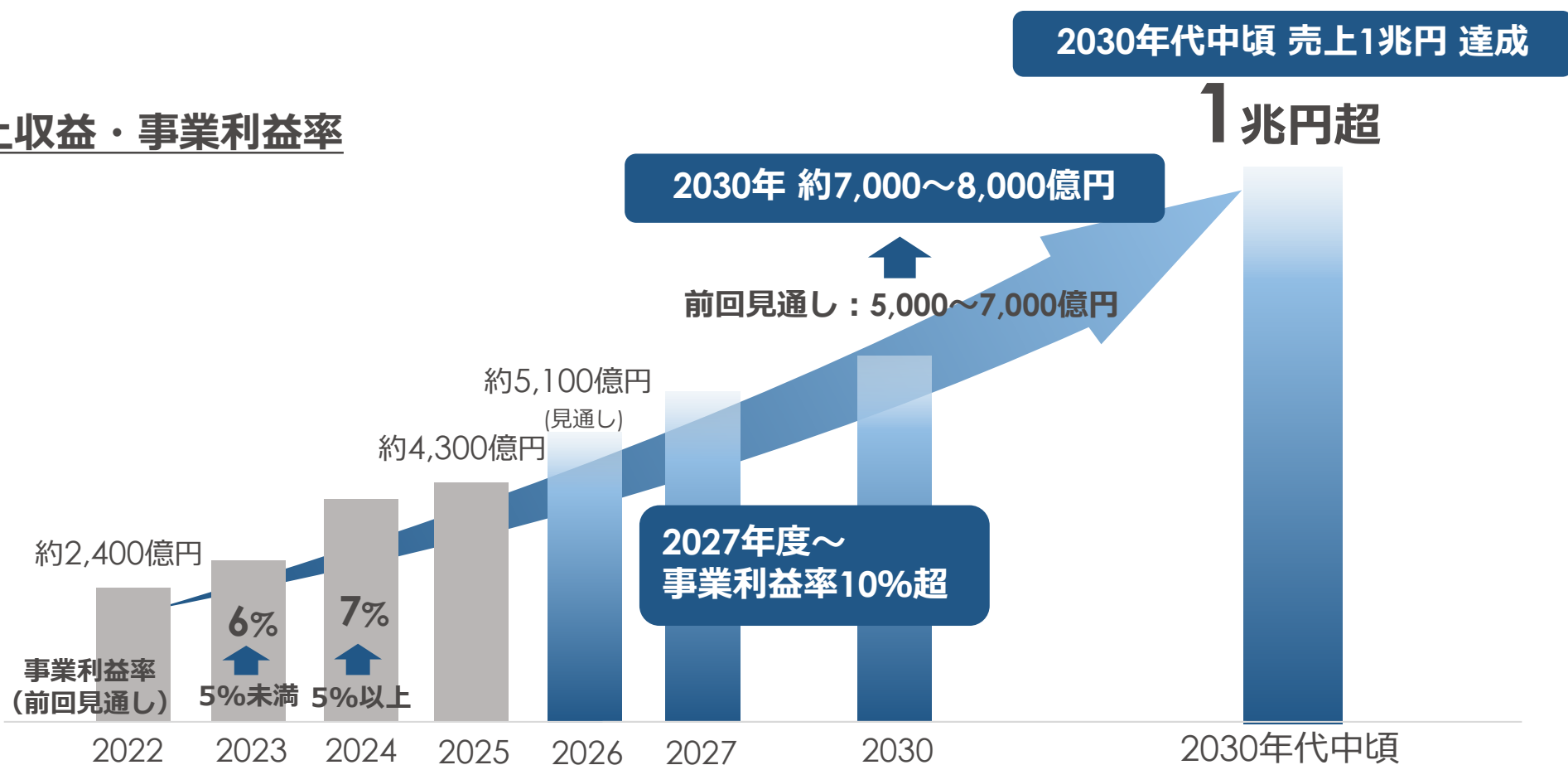
④

フィジカルAI

防衛事業の進捗と更なる成長

- 防衛費増額を追い風に、2030年度の売上収益見通しを**約7,000～8,000億円へ上方修正**
- 「新しい戦い方」への取組みにより、**2030年代中頃に売上収益1兆円超達成**を目指す
- 防衛事業の事業利益率は、契約制度改正等により、**2027年度以降10%超を実現見通し**

売上収益・事業利益率



既存事業の成果

SOJ

(スタンド・オフ電子戦機)

✓ 2026年6月初号機納入



量産及び機能拡充
の促進

新SSM

(島嶼防衛用新対艦誘導弾)

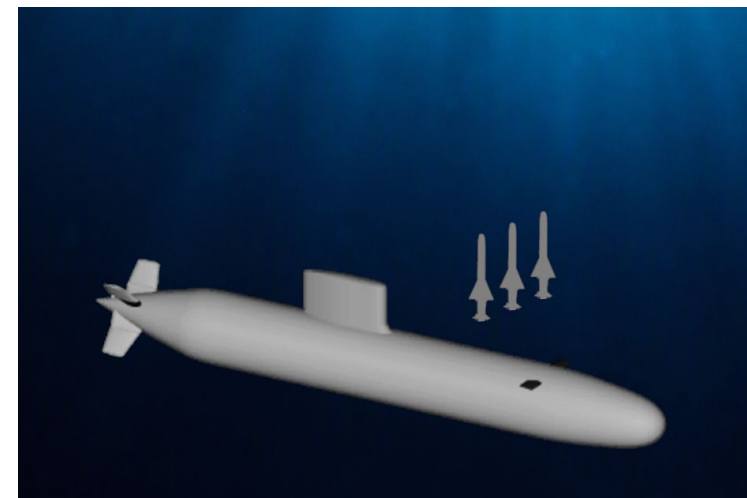
✓ 2025年発射試験成功



次世代SSM
へ発展

スタンド・オフ 防衛能力

✓ 2025年度研究試作受注



技術データ
の蓄積

防衛予算の見通し

■ 「新しい戦い方」への対応強化 無人アセット防衛能力・AI等への注力

防衛省予算区分

- 無人アセット防衛能力
- スタンド・オフ防衛能力
- 統合防空ミサイル防衛
- 指揮統制・情報関連機能
- 領域横断作戦能力
- 機動展開能力・国民保護
- 持続性・強靱性
- 防衛生産基盤の強化
- 研究開発
- 基地対策
- 教育訓練費、燃料費等

7つの重視分野

約43.5兆円

現行計画
2023-2027年度

安全保障環境の変化

- AI・無人機の急速な普及
- 周辺国間における軍事協力の深化
- 周辺国の太平洋方面への進出
- 同盟国の安全保障政策の変化

■ 新たな3本柱・9項目

- ① 「新しい戦い方」への対応
AI／無人アセット／スタンド・オフ／
統合防空ミサイル／宇宙／サイバー
- ② 持続的な対応能力
太平洋・シーレーン防衛
- ③ 防衛力の基盤
防衛生産・技術基盤／人的基盤

次期計画
2027-2031年度

次々期計画
2032-2036年度

「新しい戦い方」への当社の取組み

現在の技術・知見



重点取組み

AI技術の深化



無人潜水艇



行動判断・画像処理



エッジAIによる高知能化

教育システム開発

スタートアップ企業との協業



エッジAI演算装置の研究

海外企業との連携



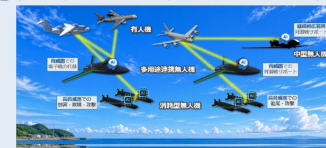
KJエンジン自社開発推進



【各種基盤に対する投資】

「新しい戦い方」を実現するシステム・装備

① 有人機と無人機との連携



② 自律協調システム



③ 統合教育訓練システム



④ KJエンジン



AI・DE

Artificial Intelligence Digital Engineering

研究開発

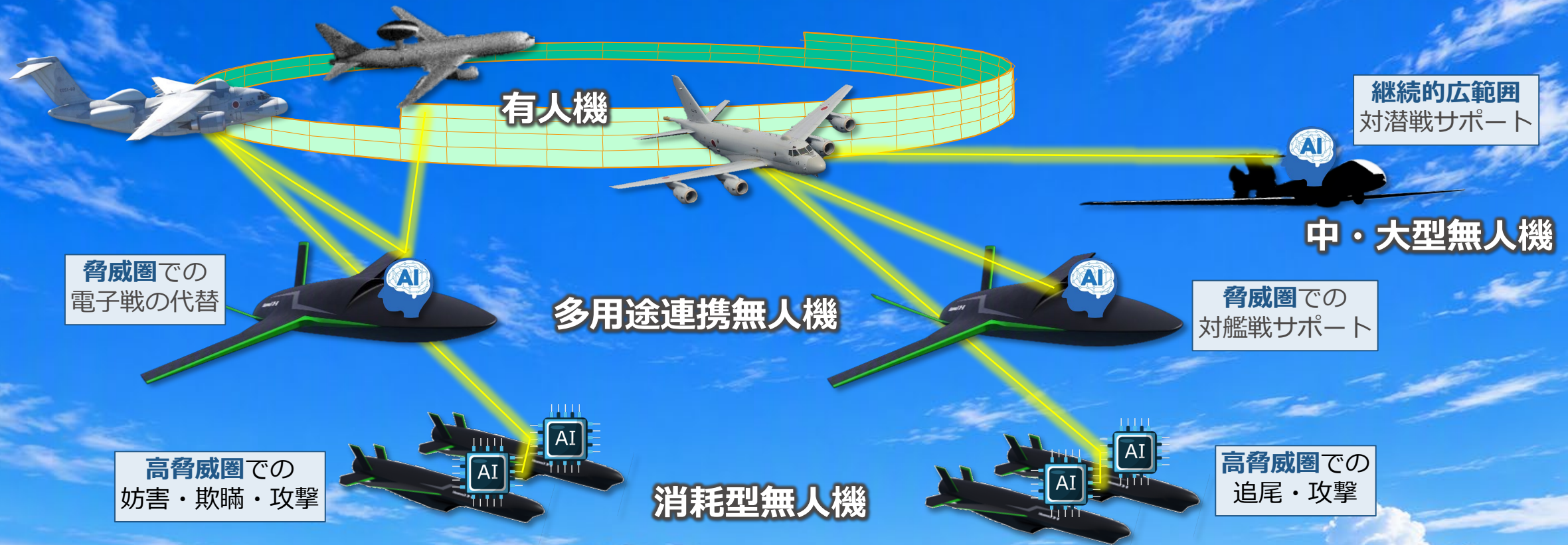
量産・製造

認証体制

セキュリティ

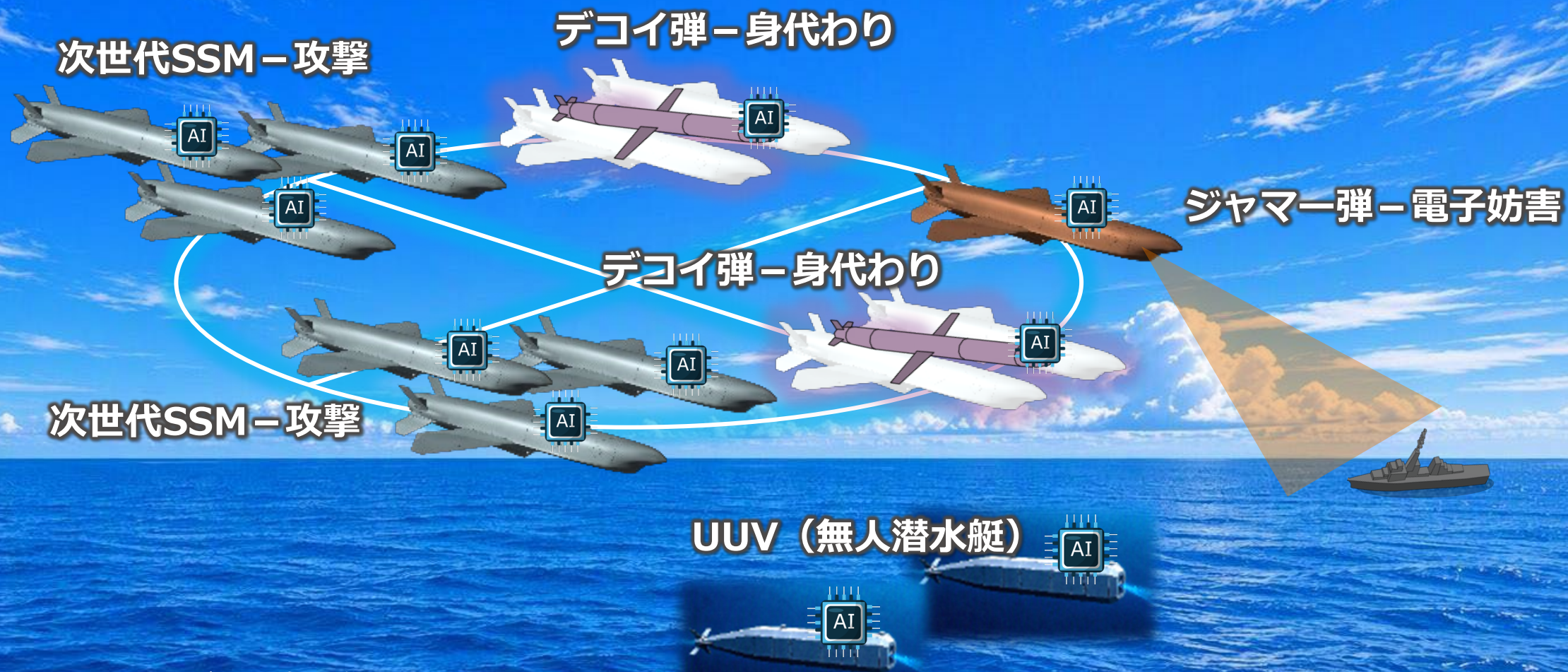
「新しい戦い方」の実現① 有人機と無人機の連携

■ 有人機の任務を補完・代替する無人機への取り組み



「新しい戦い方」の実現② 自律協調システム

- 遠隔・高脅威圏において、与えられた指示により『エッジAI※』が協調してミッションを達成



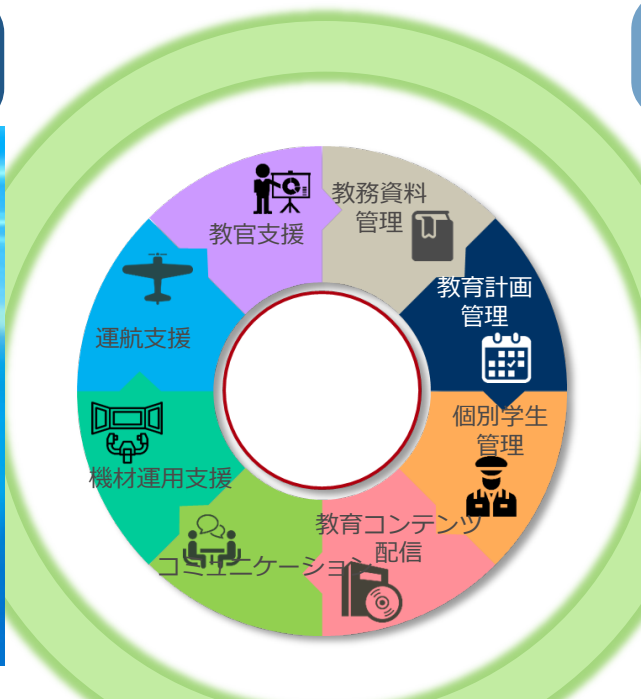
※エッジAI：クラウドや遠隔のサーバーに依存せず、
機器の演算装置上で情報を処理するAI技術

本画像は生成AIを用いて作成

「新しい戦い方」の実現③ 統合教育訓練システム

■ AIを活用した効果的な教育訓練システム

先進地上訓練装置



次世代練習機



統合データ教育訓練基盤

- 訓練データ統合管理
- 共通訓練環境基盤
- AIサポート

「新しい戦い方」の実現④ KJエンジン

- 無人アセット向け**KJエンジン・シリーズの自社開発とラインアップ拡充**を推進
- **国内で唯一、大電力を供給できる小型ターボファンエンジン**

